

2003年3月10日

淀川水系流域委員会

委員長 芦田和男 様

宇治・世界遺産を守る会
代表世話人 須田 稔

畑委員の質問と河川管理者の回答に関して

天ヶ瀬ダム再開発・1, 500 m³/秒放流の問題点についての報告と要請

- 1、河川管理者の提供資料『『淀川水系河川整備計画策定に向けての説明資料（第1稿）』質問への回答』（淀川水系流域委員会第18回委員会への資料2-3-1）のP24に記載の畑委員からの質問および河川管理者の回答は下記のとおりです。

畑委員の質問「1）-2 淀川(宇治川)の項に関しては、第17回拡大委員会（H14.1.24開催）で一般からのご意見として、宇治川の歴史的景観との関係で意見書提出及び意見陳述がありました。すでに淀川部会で議論されたところとは拝察されますが、小生のような他部会委員にもわかりやすい形で(写真やビデオ映像等)で、問題点の説明をお願いいたします。

<理由>指摘された事実があるのなら、よりよい工法等の可能性の検討を早急に行わなければ、宇治平等院を始めとする世界にほこるべき宇治地域の景観へ取り返しのつかないダメージを与える恐れが生じるため。」と述べられています。

この質問に対する近畿地方整備局の回答が「現在、宇治川の塔の島地区で行っているのは、第2回淀川流域委員会（H13年4月）において、実施状況の説明をした護岸工事です。（別添資料、17）宇治川においては、その周辺を含む歴史的文化的な景観価値などから、昨今の景観議論に先駆けて、昭和48年10月より、宇治市、商工会議所や学識経験者などから構成される「宇治橋付近景観保全対策協議会」において検討が進められ、昭和53年11月には「宇治川改修計画に対する意見書」が宇治市長から淀川工事事務所に提出されています。以降、宇治川の改修工事は、それに基づきすすめてきました。その後平成12年度には委員の拡充を行い、「塔の島河川整備検討委員会」として、公開の場で改めて意見を得て、環境面・景観面への配慮を十分勘案した上で計画を策定しました。それらを踏まえた工事実施について住民に説明し、現在に至っています。」と記述しています。

- 2、私たちはこの回答に極めて疑問を感じます。なぜなら、畑委員の質問は、私たちが指摘している事実があるのかないのか、問題点を説明してほしいということですから、近畿地方整備局が、問題点があると考えているのかないのか、また私たちが指摘している事実があるのかないのかを答えるべきなのです。

整備局の回答は、経過を述べているだけです。しかも正確さを欠いています。「宇治橋

付近景観保全対策協議会」は、宇治市長が諮問機関として設置したものであり、「塔の島河川整備検討委員会」は、近畿地方整備局淀川工事事務所の検討機関であり、後者を前者の継承拡充の会議体として記述することは甚だしい誤認です。

また2001（H13）年4月21日に行われた「防災を考える市民の会」と淀川工事事務所の説明・懇談会において、環境・景観破壊と1500m³/秒放流への疑問・批判意見が数多く出されたことは記述されていません。

問題は、近畿地方整備局淀川工事事務所がいろいろ検討・協議して改修工事をすすめてきたといわれるが、その工事の結果、宇治川の環境・景観破壊がおこっているということなのです。

3、河川管理者提供の『淀川水系河川整備計画策定に向けての説明資料(第1稿)』質問への回答（淀川水系流域委員会第18回委員会・資料2-3-2）の「別添資料17」の写真・宇治川塔の島地区（1）（2）は、塔の島、橋島の東半分が削られたことを示す写真で、（3）下の写真は観流橋から下流を見たものです。

いま私たちが問題にしている塔の島の縮切堤の築堤によって喜撰橋からの景観が破壊されたこと、天ヶ瀬吊橋から塔の島への導水管敷設による塔の島から天ヶ瀬吊橋までの宇治川左岸の景観破壊、そして亀石周辺の景観が様変わりするという肝心の写真は掲載されていません。

4、問題地点の写真

ア) これは環境・景観の破壊といいませんか。



写真（1）喜撰橋から上流の景観・縮切堤と導水管

塔の島が石積みの縮切堤によって左岸とつながれ、喜撰橋から上流の景観は見るも無残な有様。塔の川は季節によって、水量が減少し、藻が繁殖し、時には悪臭で観光客から苦情が。

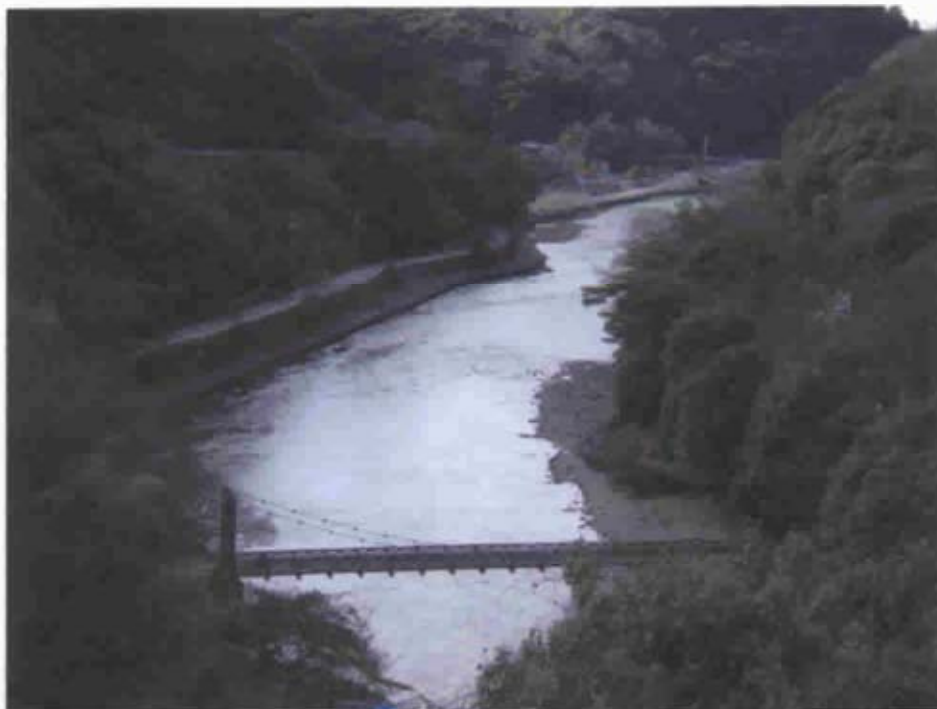


写真（2）塔の島の石積み締切堤

まるで道路の様に川面を寸断する締切堤と左岸の導水管。締切堤も導水管も2車線分以上の幅がある。旅館の窓から川面を眺められた風情も台無し。



写真（3）塔の川の繁茂した藻の撤去作業・橋樑



写真（4）天ヶ瀬吊橋から延々と左岸に続く導水管

天ヶ瀬吊橋から塔の島まで宇治川左岸に沿って1キロメートル以上、石積みの導水管が敷設され、自然の右岸と比べてひどい景観破壊となりました。



写真（5）天ヶ瀬吊橋下流。右岸は自然の岸、左岸は導水管の石積み



写真（6）白川浜付近・右岸は自然、左岸は導水管の石積み
浜は導水管の下に。



写真（7）白川浜(左岸)・導水管敷設によって石とコンクリートで固められた



写真（8）水面から顔をのぞかせる亀石

この姿も、平成 14 年 11 月～15 年 3 月の宇治山田地区の工事でまったく様変わりする。



写真（9）宇治山田地区の「護岸工事」？の看板。工事で亀石周辺はこうになってしまう。この予想図にも間違いがあります。宇治川の水面がこうであれば亀石対策は要りません。河床掘削により水面が1メートル以上下がるので、亀石が陸に上がるのです。また河道の拡幅、掘削をしなければならないと言いながら、なぜ宇治川を埋め立てるのですか、大きな疑問です。（大きな木から右側埋め立て）。



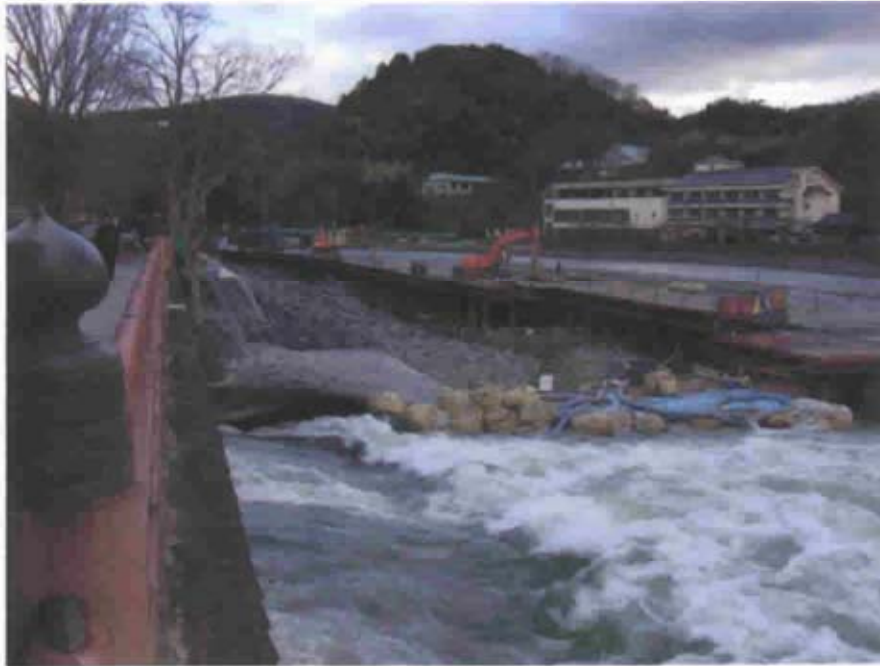
(10) これもなぜか川を石で埋め立てた宇治橋上流・左岸。
元は階段の下までが川であった。

イ) 再検討中といいながら一方で工事をどんどん進める。これは異常ではないですか？

○河川管理者は、「天ヶ瀬ダム再開発見直しの検討結果及び下流の破堤対策の進捗状況を踏まえて宇治川の河道を掘削実施」(第1稿)と書いています。

しかし「天ヶ瀬ダム再開発見直し検討」の完了時期も何時とは答えず、「下流の破堤対策(22キロメートル)はその地点、地点の工事がありますので何時完了するか分かりません」、「したがって河道の掘削実施の時期は不明です」と回答(2003年2月26日、防災問題を考える市民の会との懇談会)。

それなのに、関連の工事だけはどんどん進めている。これはおかしくないですか。



(11) 宇治山田地区の「護岸工事」？ 3億円の費用。河道掘削の関連工事。

- 「天ヶ瀬ダム再開発見直し」、「放水路トンネル方式の再検討」、「既存施設の有効活用」などと説明しながら、大トンネル工事用の道路の拡幅工事は進めているなど、これは言行不一致、偽計と私たちには映ります。



(12) 白川浜・天ヶ瀬ダム再開発・大トンネル工事に伴う道路拡幅工事



(13) 天ヶ瀬ダム再開発・大トンネル工事に伴う道路拡幅工事(天ヶ瀬吊橋直上流左岸)。
自然の岩石の岸に模造の護岸パネルを貼り付けている。



(14) 天ヶ瀬吊橋直上流の道路拡幅工事の看板 (完成予想図)

5、天ヶ瀬ダム再開発・1500m³/秒放流計画の慎重かつ速やかな再検討と関連工事の一時停止を。

天ヶ瀬ダム再開発・1500m³/秒放流は、天ヶ瀬ダムが建設された時以上に宇治川の環境・景観と治水・防災の二つの面で大きな影響を与える重大な問題をもっています。

近畿地方整備局は、天ヶ瀬ダム再開発は見直す、しかし1500m³/秒放流は見直さないと述べています。

しかし、治水・防災の面で、1500m³/秒放流の必要性、日本で他に例がない高水位の10日間以上の通水を行う場合の下流の安全性について、また安全性を確保するための22キロメートルの破堤対策の莫大な工事費用について大きな疑義があり、納得ゆく説明がなされていません。

また環境・景観の面では、工事による環境・景観破壊が進行中ですが、さらに重大な塔の島地区の河床の掘削という問題があります。

近畿地方整備局は、説明会はおこないますが、防災を考える市民の会との1月15日、2月26日の懇談会でも、2月16日の宇治市での住民説明会でも質問・疑問に対して納得ゆく回答をしていません。

貴委員会が慎重かつ速やかに1500m³/秒放流について関係住民が納得いく形で審議いただき、検討の結果、中止を提起していただくことを要請いたします。

以上

*宇治・世界遺産を守る会 代表世話人 須田 稔 (立命館大学名誉教授)